

日本中国語学会第 62 回全国大会ワークショップ応募規定

日本中国語学会全国大会運営委員会 (2011.12.23)

1. ワークショップは大会初日に約 2 時間の枠で約 3 部会に分かれ、それぞれ同一のテーマのもとで約 4 人の発表者が互いに関連した発表をする。内容としては、オリジナルな研究発表はもとより、ある領域の回顧と展望といったものも歓迎する。商業目的ないしそれに類する企画は採択されない。
2. 応募は企画者が代表して行う。企画者を含む半数以上の発表者は本学会会員であることを要し、かつ会員については全員が応募期間最終日までに会費未納分がないこと。
3. 応募期間は 2012 年 1 月 15 日(日)から 3 月 31 日(土)日本時間 24 時までとする。審査結果は 4 月下旬に応募者に個別に通知する。なお、採択された企画の発表者は一般発表・ポスター発表に重複して応募することはできない。
4. 司会者は応募者側で準備すること。司会者は企画者ないし発表者が兼ねても差し支えないが、別途立てる場合は会員比率半数以上という規定の総人数に算入される。2 時間の内訳の割り振りは自由だが、一人あたりの発表時間が 20 分を超えないことを原則とする。メインテーマは後で変更することはできないが、各発表者の題目は応募時の段階では仮題でも差し支えない。相応の理由がある場合は発表者の内訳を変更することも 2012 年度については許容するが、最終的な発表者名と全員の最終題目は一般発表の応募期間内(2012 年 6 月 1 日～18 日)に提出し、それ以降は変更することはできない。
5. 企画実行に必要な費用は応募者側がすべて出すこと。
6. 海外からの発表者がいる場合は応募者側の責任においてすべての渡航手続・接待を行うものとする。大会側が発行できる書類は採択証明とプログラム(2012 年 7 月下旬に学会ホームページに掲載予定)のみである。
7. ワークショップを他の学会・大学(附置組織も含む)・研究会などの組織との共催・後援名義によって行うことはできず、あくまでも本学会単独の企画として行う。科研費・民間財団助成金・学内プロジェクトなどの資金の援助を受けている旨を予稿集原稿に謝辞として記すことは差し支えない。
8. 予稿集原稿は全体で 20 ページ以内とする。原稿の形式や締切などの他の事項は 2012 年

4月初旬までに学会ホームページに掲載される予定の一般発表の規定に準ずる。

9. 採択された後に、正当な理由なく辞退したり予稿集原稿提出が遅延した場合、翌年の応募資格がなくなることがある。

10. 応募する際は以下の内容

- 1) 企画者・発表者・司会者の氏名・email アドレス・所属機関・職位・会員番号・会費納入状況の一覧表。非会員を含める場合はその理由も付すこと。
- 2) ワークショップのメインテーマと各発表者の仮題。
- 3) 当該企画の概要・意義(1000字以内)。

をワードファイルで大会運営委員会

taikai2011-12@chilin.jp

に添付ファイルで送付する。